



令和6年度 県北ブロック音楽教育研究協議会の記録

つながる ひろがる ふかまる 「あい」のある音楽へ

～表現と鑑賞の関連を図った学習指導～

令和6年10月9日（水）

高萩市立松岡小学校（小学校の部）

高萩市立松岡中学校（中学校の部）

茨城県教育研究会

茨城県教育研究会音楽研究部

同 県北ブロック音楽研究部

目 次

- P 1 令和6年度茨城県教育研究音楽教育研究部県北ブロック研究協議会要項
- P 2 研究の概要
（1）研究主題
（2）研究主題について
- P 3～P 5 小学校部会指導案
高萩市立松岡小学校 教諭 池田 有希子
- P 6 成果と課題
- P 7～P 9 小学校部会協議会
（1）授業反省
（2）協議内容
（3）指導・講話
茨城県立日立第一高等学校附属中学校 教頭 花田 喜龍先生
- P 10～P 19 講師資料
- P 20～P 22 中学校部会指導案
高萩市立松岡中学校 教諭 上野 陽平
- P 23 成果と課題
- P 24～26 中学校部会協議会
（1）授業反省
（2）協議内容
（3）指導・講話
茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 井上 寛士先生
- P 27～P 32 講師資料

**令和6年度 茨城県教育研究会音楽教育研究部
県北ブロック研究協議会開催要項**

- 1 主 催 茨城県教育研究会
茨城県教育研究会音楽教育研究部
同 県北ブロック音楽教育研究部
- 2 期 日 令和6年10月9日(水)
- 3 研究主題 つながる ひろがる ふかまる 「あい」のある音楽へ
～表現と鑑賞の関連を図った学習指導～
- 4 講 師 ○小学校部会 県立日立第一高等学校附属中学校 教頭 花田 喜龍 先生
○中学校部会 茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 井上 寛士 先生
- 5 会 場 ○小学校部会 高萩市立松岡小学校
〒318-0003 高萩市下手綱43 TEL 0293-22-2430 FAX 0293-22-2148
○中学校部会 高萩市立松岡中学校
〒318-0003 高萩市下手綱4 TEL 0293-22-2431 FAX 0293-22-2197

6 日 程

※高萩市立松岡小学校

13:00 受 付	13:30～14:15 研究授業(3年2組)	14:15～14:30 休憩	14:30～15:40 研究協議(会議室)
--------------	---------------------------	-------------------	--------------------------

※高萩市立松岡中学校

13:10 受 付	13:40～14:30 研究授業(多目的室)	14:30～14:45 休憩	14:45～15:55 研究協議(多目的室)
--------------	---------------------------	-------------------	---------------------------

7 研究授業

学 校	学年・組	題 材	授業者	授業時間
松岡小学校	3年2組	せんりつの重なりをかんじとろう	池田有希子	13:30～14:15
松岡中学校	1年1組	曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう	上野 陽平	13:40～14:30

8 研究協議会係分担 ※小学校部会：高萩市立松岡小学校 ※中学校部会：高萩市立松岡中学校

分科会	場 所	司 会 者	記 録 者
小学校部会	高萩市立松岡 小学校会議室	作山 文香 高萩市立秋山小学校	堀内 里美 高萩市立東小学校
中学校部会	高萩市立松岡 中学校多目的室	福原 美和 高萩市立高萩中学校	中山 裕貴 北茨城市立常北中学校

1 研究の概要

(1) 研究主題

<p>つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ ～ 表現と鑑賞の関連を図った学習指導 ～</p>

(2) 研究主題について

学習指導要領では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽（中学校では「音楽文化」も含む）と豊かに関わる資質・能力を育成することが目標となっている。また、令和6年度茨城県学校教育指導方針でも、生活や社会の中の音や音楽（中学校では「音楽文化」も含む）と豊かに関わる資質・能力の育成を重点とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を努力事項として掲げている。

児童生徒に主体的に音や音楽と関わる資質・能力を身に付けることは、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、生涯を通して音楽に親しむ態度を養うために大変重要なことである。

そこで、県北ブロック音楽教育研究部では令和6年度県音楽教育部の研究テーマ「つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ」に迫るため、サブテーマを「表現と鑑賞の関連を図った学習指導」と設定し、特に重点としたいことを以下のように考えた。

「つながる」：音や音楽を通して、児童生徒同士のつながりや、作曲者や演奏者等とのつながりが感じられる学習活動の展開

「ひろがる」：曲想と音楽の構造の関わりなど、児童生徒の音楽の見方・考え方をひろげることができる表現と鑑賞の関連を図った学習活動の展開

「ふかまる」：児童生徒が自分にとって音楽のよさや価値を見だし、味わって聴いたり、聴き取ったことをどのように表現に生かすかを考えたりすることができる主体的・協働的な学習活動の展開

「あい」のある音楽：曲想や音色、旋律等の音や音楽との出会いを大切にしたい学習活動の展開

これらを研究・実践するために、県北ブロックでは、小中両部会において研究授業を行う。また、研究授業後に、「表現と鑑賞の関連を図った学習指導の工夫」について参加者全員で協議するとともに、茨城県立日立第一高等学校附属中学校 教頭 花田 喜龍 先生、茨城県教育庁学校教育部 義務教育課 指導主事 井上 寛士 先生から指導講話をいただくことで、県北ブロックのサブテーマを通して県のテーマ「つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ」に迫っていく。

1 題材名 せんりつの重なりをかんじとろう

2 本題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。(知識及び技能)
- (2) 旋律や音の重なり、反復などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり歌ったりする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 旋律や音の重なり、反復などに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽に見られる旋律や音が重なる面白さに親しむ。(学びに向かう力、人間力等)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第3学年 A 表現(1)イ B 鑑賞(1)ア、イ [共通事項](1)ア
 (本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素)
 「旋律」「音の重なり」「反復」

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 曲想及びその変化と、旋律の音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気付いている。	思① 旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見出し、曲全体を味わって聴いている。	態① 旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
知② 曲想と旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。	思② 旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	

5 題材について

(1) 題材観

本題材は、A表現(1)イとB鑑賞(1)ア、イに関する内容である。具体的には、楽器や声の音が重なり合うことで生まれる響きを感じ取り、それを基に旋律や楽器、声の音が重なり合う面白さを味わいながら鑑賞したり歌ったりする。短い音型が繰り返されるオスティナートが加わった曲の教材性を生かして、旋律の重なり注目しながら表現と鑑賞の学習を進める。自分なりに感じたことをもとに音楽を形づくっている要素に気づき、音楽のよさや美しさを味わう活動に適した曲であると考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

児童の実態 (男子11名 女子8名 計19名 令和6年6月の授業実践による)		
音色の特徴を感じ取りながら聴くことができる。	よくできる できる できない	5名 11名 3名
曲想の変化を感じ取ることができる。	よくできる できる できない	10名 9名 0名
いつも友達の声の聴きながら歌っている。	歌っている どちらかという歌っている 歌っていない	5名 8名 6名

6月に実施した「メヌエット」(ベートーヴェン作曲)の授業では、曲想の変化を感じ取れない児童はほぼいなかった。新型コロナウイルス感染などの影響もあり、学級全体で歌う機会が少ないため、互いの声を聴き合いながら歌うことができている児童がいることが明らかになった。そこで、本題材では、学習のまとめとして互いの旋律を聴き合いながら、二つの旋律を重ねて歌う活動を設定した。活動の中で、主な旋律や反復する旋律を独立させて歌うだけでなく、互いの旋律を聴き合いながら歌う力を高めたいと考え、この題材を設定した。

(3) 指導観

1 学期の鑑賞の授業では、図形楽譜を指でたどったり、曲想が変わるところで手を挙げたりすることで、感覚的にとらえた音楽を身体で表現しながら、「音色」「旋律」という言葉を使って感じたことを言葉で表現する学習を行った。本題材では、旋律の重なりを気付けて聴く活動を通して、新たに「音の重なり」「反復」などの曲の要素にも気付かせたい。また、SKY メニューの発表ノートを使用して、感じたことや気付いたことをまとめ、好きな部分をみんなに紹介しながら感想を伝え合うことで、文章表現に苦手意識がある児童も抵抗なく取り組めるような手立てとしたい。

「歌おう 声高く」(花岡 恵 作詞/長谷部 匡俊 作曲)では、主な旋律を歌うグループと反復する旋律を歌うグループ、さらに旋律の重なりを聴くグループとに分け、聴き合う活動を通して旋律や音の重なる面白さに気付かせたい。また、「かね」(「アルルの女」第1組曲から ビゼー 作曲)では、旋律の重なりや強弱の変化を感じ取りやすいよう、「歌おう 声高く」との関連を重視した展開としたい。

6 題材の指導計画 (3時間扱い)

◎は記録に残す場面

時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	<p>目標：旋律や音の重なり、反復に気を付けて歌ったり聴いたりする。</p> <p>1 「歌おう 声高く」の旋律を聴き、曲の特徴を感じ取りながら歌う。</p> <p>2 題名を伏せて「かね」のAの部分のみを鑑賞する。</p> <p>3 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>課題 曲をよくきいて、だいたいを考えよう。</p> </div> <p>4 課題にせまる。 (1) Aの部分のみを鑑賞し、感じたことや気付いたことをワークシートに記入する。 (2) 2つの旋律から曲が構成されていることを知る。 (3) 全体で共有したことをもとに、曲の題名と理由をワークシートにまとめる。</p> <p>5 本時の振り返りを行う。</p>				<p>知：曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気付いている。【観察】</p> <p>態：旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【聴取・観察】</p>
2 本時	<p>目標：曲想及びその変化と音楽の構造との関わりに気付きながら、旋律や音の重なり、反復の働きが生み出す曲のよさを楽しむ。</p> <p>1 曲の題名を知る。 (1) 前時に考えた曲の題名を一覧表にして発表する。 (2) 「かね」の題名を知る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>課題 「かね」を聴いて曲のとくちょうを考えよう。</p> </div> <p>3 課題にせまる。 (1) 前時の感想をふりかえり、そこからいつの時代・どこの国・どんな曲かを知る。 (2) 「かね」のA部分を聴き、前時</p>				<p>思：旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。【観察】</p> <p>・作曲者の時代や文化を知ることによって、今から鑑賞する曲に興味をもてるようにする。</p>

	<p>で取り組んだワークシートの振り返りをし、「かねのせんりつ」に気付く。</p> <p>(3) 曲想が変わるところで挙手をし、曲の構成がアーイーアになっていることに気付き、イの終わりからアに移り変わる部分に着目して聴き、旋律の重なり方を確認する。</p> <p>(4) 「かねのせんりつ」の強弱に着目して聴き、気付いたことを伝え合い、発表ノートにまとめる。</p> <p>4 曲の全部を通して聴き、「歌おう声高く」の歌い方の工夫につながるように声掛けをし、本時の振り返りを行う。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>	<p>知：曲想及びその変化と、旋律の音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気付いている。 【聴取・観察】</p> <p>思：旋律や音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見出し、曲全体を味わって聴いている。 【発表ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形楽譜を指でたどる、手を三角形に動かす、鐘をハンマーで打つような動きをするなど、音楽に合わせて体を動かすことで実感を伴いながら、旋律や強弱がどのようにになっているかを感じ取ることができるようにする。 <p>態：旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【観察】</p>
3	<p>目標：曲のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたり、歌ったりする。</p> <p>1 本時の課題を確認する。</p> <div data-bbox="260 1115 758 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 「歌おう 声高く」をきいて「かね」と同じところを見つけて歌おう。</p> </div> <p>2 課題にせまる。</p> <p>(1) 「歌おう 声高く」を聴き、「かね」と同じところを探す。</p> <p>(2) 「歌おう 声高く」の範唱を聴き、発音や発声に気を付けながら主な旋律を歌う。</p> <p>(3) 二つの旋律を重ねて歌う部分の歌い方を工夫し、グループを二つに分け、どのように歌うかについてグループで話し合い練習をする。</p> <p>3 本時の振り返りを行う。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>	<p>思：旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【聴取・観察・発表ノート】</p> <p>態：旋律の重なりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【観察】</p>

7 成果と課題

<成果>

- ・写真・オーケストラの動画・CD・ICT（タブレットのポジショニング）を駆使して児童を飽きさせない工夫ができた。
- ・児童にとって聴きなれていないクラシック曲だったが、いろいろな聴くポイントを提示したおかげで大体の児童が集中して聴くことができていた。
- ・ワークシートの文章だけの評価だけでなく、聴いた音を体で表現する活動を3種類取り入れたので、ここでも評価することができた。

<課題>

- ・本時の目標である「音の重なり」に気付くことはできたが、それによって歌の表現活動に意味をもたせるところまで、導くことが難しかった。

【小学校部会研究協議会】

(1) 授業者反省

第1時では、旋律の重なりを見つけ、題名を予想する活動を行った。児童が主体的に鑑賞に取り組むことができるよう、クイズ形式にした。1学期に「メヌエット」を鑑賞したときに、音楽ワークに載っている赤い風船(元気な・明るい)・黄色い風船(おだやか・なめらか)・青い風船(悲しい・静かな)などの曲想を色で表現している言葉が有効だと感じたので、児童との共通認識の言葉として今回の授業にも活用した。児童が鑑賞する時には、飽きさせないための工夫として、曲全部を聴かせるのではなく、アのパートのみを聴かせて題名を予想させた。曲想は、「明るい」「元気」「スキップしている」など赤い風船をイメージする児童が多かった。中には、黄色の風船を選び、「おだやか」と答える児童もいた。



本時では、児童の予想した題名を発表することから始めた。第1時の終わりには、「本当の題名は何だろう？」と疑問に思う児童が多くいたため、発表を真剣に聞いていた。児童が予想した題名には「強弱の大冒険」や「スキップ」など強弱やリズムなどの音楽を形づくっている要素を表す言葉で表現する児童もおり、理由をたずねると児童なりに音楽を形づくっている要素を感じた言葉で発表していた。曲を聴く際にはポイントを明確にすることで、聴きなれていないクラシックでも、何度も繰り返し聴くことができた。

また、かねの旋律が主旋律に重なる部分を聴き取って表す活動には、ICTのポジショニングを活用した。どの児童もかねを表すホルンの音が出てきたら、タイマーの時間を確認して前半か後半か児童なりに考えて予想することができた。ポジショニングを活用することによって、集計する時間の短縮ができ、児童の考えを一斉にモニターに提示できた。また、評価する場面をワークシートの文だけでなく、リトミックの動きを取り入れて旋律の重なる部分を聴き取って動きに表しているところも評価した。

今後も題材の理解を深め、ICTをうまく活用し、児童にとって音楽が身近に感じられる授業を実施していきたい。

(2) 協議内容

テーマ「つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ

～表現と鑑賞の関連を図った学習指導～

※小学校部会では、主に本日の研究授業について、良かった点・疑問点について意見を出し合い、普段の授業についての困り感などについて話し合いを行った。

〈授業者への質疑応答〉○は質問 →は授業者からの回答 ・は参加者の意見、感想

○子どもたちにわかるように伝える工夫はどうやって行ったか。

→話し合いの際にどういった問いかけをしたらよいか、どんな作業を入れたらよいかを考えた。文章で表すことが苦手なので、身体表現を主に行った。

○クラシックを聞きなれていない子どもたちへの支援について。

→何回も聞かせることが必要であるが、あまり聞かせすぎても飽きる。

→「いろいろな視点を与える。」「目隠しして聞く(他の子の真似をしない。」「よく聞かせたいときは、

映像を見せない。「体を動かして表現させる。」など、何を考えさせたいかによって提示の方法を考えることが大切。

○鑑賞で、猫の曲をかけたときに「ゾウ」という意見がでたことがある。どうしたらよいか。

→どうやってねらいにもっていくか難しい。一日だけでは身に付かないので継続的な指導が必要。

○鑑賞の授業の進め方について

・音楽を聴いて感じたことを自由に表現する。たとえば、「楽しい」「悲しい」「元気が出る」「優しい」など、感情を言葉で表現する。次に、感情を表す言葉を基にして、その感情を音楽のどの部分で感じたのかを具体的に話し合うのはどうか。

○身体表現について

・音楽を聴いて体を使って表現する。メロディに合わせて手拍子をしたり、歌詞を覚えて歌ってみたり、音楽を聴いて感じた感情を体の動きで表現する活動を行う。

〈参加者の意見、感想〉

- ・3年生だったがクラシックに興味をもっていた。クラスが明るい雰囲気、児童を惹きつける工夫がたくさんされていた。(色の風船、身体表現)
- ・何度も曲を聞かせていたが、聞くポイントを示していたので、多様な聞き方ができていた。目するポイントが明確だった。
- ・子どもたちが自由に自分の思いをよく表出していた。
- ・場面ごとのICTの使い方が上手だった。
- ・映像を見て、かねの音がホルンとわかった。教材の使い方が効果的だった。

(3) 指導・講話

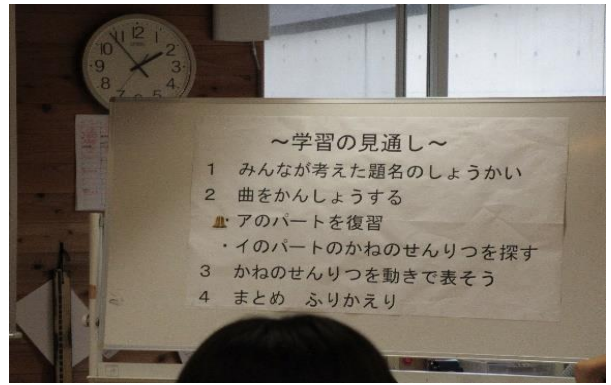
講師：茨城県立日立第一高等学校附属中学校 教頭 花田 喜龍先生

○本日の授業について

子どもたちはどの子も一生懸命先生の話聴き、答えようとしていた。日頃の先生の指導が表れていた。表現することが苦手な子もいたが、体を揺らしたり、手をたたいたりして自分なりに表現していた。

○表現と鑑賞の関連を図った学習指導について

「聴くこと」は、音楽活動や音楽学習の基礎である。「きれいだな」「すてきだな」と感じられる力、そこからいろいろなものをイメージできる力、表現してみたいと思う気持ちが大切である。学習の関連性に気づき、連携が図られてこそが主体的な学びにつながる。本日の授業の目標は、「曲想及びその変化と音楽の構造の関わりに気付きながら、旋律や音の重なり反復の動きが生み出す曲のよさを楽しむ」であった。児童は「曲想」の意味が分からなかったが、すでに身体で感じ取っている児童が多数だった。「深まりのある」鑑賞体験をするには「かねの旋律の確認」「聴



き方」(何をどのように聴くのか)を確認していくことが大切である。例えば、「かねの音はどう？」
「かねの音がなくなったらどう？」「かねの音はその後どうなった？」などの問いかけにより、表現することに結び付けていく。何よりも大切にしたいことは、美しいものを美しいと感じる気持ちと、子どもたちが感じる「心地よさ」である。その気持ちと心地よさが豊かな情操を育てていくと考える。

「県学校教育指導方針」では「学習の個別化」が言われている。音楽科では「みんな同じ曲を歌う」「みんなで同じ曲を聴く」「みんなで作品を創る」ことが特徴をしてあげられるが、これからは子供が自身の学習が最適となるように調整することができるような活動を設定していく必要がある。「子どもたちに身につけさせたい資質・能力」を明確にし指導したことを評価することが大切である。

令和6年度 県北ブロック 音楽教育研究協議会



つながる ひろがる ふかまる 「あい」のある音楽へ
～表現と鑑賞の関連を図った学習指導～

令和6年10月9日（水）高萩市立松岡小学校

茨城県立日立第一高等学校附属中学校 花田 喜龍

1 表現と鑑賞の関連を図った学習指導

**「聴くこと」 = 音楽活動や音楽学習の基礎
様々な音楽活動の基底**

【4～5歳】

「きれいだな」「すてきだな」と感じられる力
そこからいろいろなものをイメージできる力
表現してみたいと思う気持ち

よい音楽をまず聴き、それをまねし、くり返しドレミで歌うことで、
音を言葉のようにとらえ、そのポキャブラリーを増やしていく。

(ヤマハ音楽教室)

1 表現と鑑賞の関連を図った学習指導

鑑賞をしているとき
「こんな風に表現したい」
「こんな表現の仕方があるのか」

表現をしているとき
「こんな風に演奏したい」
「こんな演奏にするためにこういうことに気を付けよう」

学習の関連性に気付き、
学んだことを生かそうという思いをもっている。



関連が図られている

これこそ
主体的な学び

1 表現と鑑賞の関連を図った学習指導

どのような指導が効果的なのか

- ・どの要素（働き）が特徴的なのか
（音色、強弱、リズム、和音、旋律など）
- ・様々な音楽に親しみ、そのおもしろさに気付く
（いろいろな音楽がある）
- ・自分なりにその音楽の良さを感じ取る

主体的な学びを促す手立て

それぞれの思いや願いを対話

協同的な学びへの広がり

1 表現と鑑賞の関連を図った学習指導

どのような指導が効果的なのか

【音楽的な見方・考え方を働かせて…】

音楽を形づくっている要素とその働きの視点

速さ（テンポ）、音色、リズム、和音、調など

どう変われば、どうなるか？

→「良い」「悪い」の判断ではなく

例えば…… 



5

1 表現と鑑賞の関連を図った学習指導

子供たちは何を考えるでしょう？

→必ず **「心地よさ」** があるはず。

「美しいもの」を「美しい」と感じる → **豊かな情操**

「いいもの」を「いい」と捉える



6

2 本日の授業を参観して

【本時では何を指すのか】

児童の実態

- 音色の特徴を感じ取りながら聴くこと。
 - 曲想の変化を十分に感じ取ること。
 - △互いの声を聴き合いながら歌うこと。
- 聴き合いながら「歌う力」を高めたい。

「あい」のある音楽へ



2 本日の授業を参観して

3. 本題材の学習目標

2. 本題材の学習指導要領の内容

知識・技能	理解・評価規準
【知】 旋律や音の重なり、反復の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。	【理解】 旋律、音の重なり、反復を聞き取り、それらの構造を説明する。また、歌詞の内容と関わりを説明する。
【知】 曲想や音の重なり、反復の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。	【理解】 曲想や音の重なり、反復を聞き取り、それらの構造を説明する。また、歌詞の内容と関わりを説明する。

→本時で学ぶこと

- 「曲想及びその変化と、旋律や音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わり」
- 「旋律」
- 「音の重なり」
- 「反復」

ズレがないように

評価及び評価方法等

【知】 曲想や音の重なり、反復の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。

【理解】 曲想や音の重なり、反復を聞き取り、それらの構造を説明する。また、歌詞の内容と関わりを説明する。

2 本日の授業を参観して

【具体的には何を指すのか】

曲想及びその変化 …… 「3部構成」の「アの部分」「イの部分」
「音の重なり」による曲想の違い

旋律 …… 「主旋律」と「オスティナート」

音の重なり …… 二つの旋律の重なり

反復 …… 「オスティナート」3音の繰り返し、など

※オスティナート = 一定の音型を繰り返して演奏すること

その他、いろいろな要素等もあるが、**焦点化**している。



9

2 本日の授業を参観して

【本日の授業の実際】



2 本 時	目標：曲想及びその変化と音楽の構造との関わりに気付きながら、旋律や音の重なり、反復の働きが生み出す曲のよさを楽しむ。 1 曲の題名を知る。 (1) 前時に考えた曲の題名を一覧表にして発表する。 (2) 「かね」の題名を知る。	思：旋律、音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。
-------------	---	---

○《第1時》曲名を考える ・聴いた音をそのまま表す ・聴いた感想を表す

↓
具体的な「もの」をなかなかイメージできない

○《第2時》「かね」の題名を知ったときの児童の反応
「旋律」「音の重なり」「反復」に結びつけることができたか？



10

2 本日の授業を参観して

【本日の授業の実際】



2 本時の課題を確認する。

課題
「かね」を聴いて曲のとくちようを考えよう。

3 課題にせまる。

- (1) 前時の感想をふりかえり、そこからいつの時代・どこか・どんな曲かを知る。
(2) 「かね」のアの部分を聴き、前時で取り組んだワークシートの振り返りをし、「かねのせんりつ」に気付く。

【観察】

・作曲家の時代や文化を知ること、今から鑑賞する曲に興味をもてるようにする。

○ 課題の確認

《児童の反応》・「曲想」って何？ → 「曲の雰囲気」

「曲想」の意味が分からない。=考えられない。

・すでに身体で感じ取っている児童が多数。

11

2 本日の授業を参観して

【本日の授業の実際】

(3) 曲想が変わるところで挙手をし、曲の構成がア→イ→アになっていることに気づき、イの終わりからアに移り変わる部分に着目して聴き、旋律の重なり方を確認する。

知：曲想及びその変化と、旋律の音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて気付いている。

【聴取・観察】

○ 前時よりも「深まりのある」鑑賞体験

「かねのせんりつ」の確認 「聴き方」=何をどのように聴くのか

「ア」の部分は、_____です。なぜなら「_____」です。

「イ」の部分は、_____です。なぜなら「_____」です。

「イ」に移り変わるときは、_____です。

「イ」では、かねの音はどうなった？

かねの音はその後どうなった？

かねの音がなくなったら、どう？

かねの音があるとなしではどう違う？

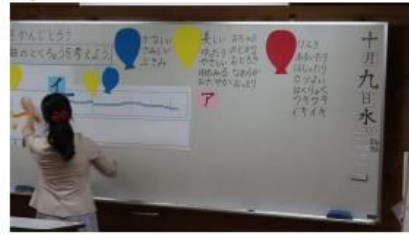
12

2 本日の授業を参観して

【本日の授業の実際】

中間部「イ」の部分
なぜ「赤」と感じたか。

→音の（強さ）大きさ
オーケストラの迫力



13

2 本日の授業を参観して

【本日の授業の実際】

(4) 「かねのせんりつ」の強弱に着目して聴き、気付いたことを伝え合い、発表ノートにまとめる。

思 旋律や音の重なり、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、楽しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見出し、曲全体を味わって聴いている。【発表ノート】

- 「かねのせんりつ」の強弱に着目
 - 強弱そのものに注目させるためだけでなく、「強弱の変化」がある場所に気付かせたい何かがある。
 - 例えば：同じ音型（パッセージ）でも音が違うところ
再現するところ 一体感 など

14

2 本日の授業を参観して

【本日の授業の実際】

4 曲の全部を通して聴き、「歌おう
声高く」の歌い方の下につながら
るように声掛けをし、本時の振り返り
を行う。

・図形楽譜を指でたどる、手を三角形
に動かす、鍵盤をハンマーで打つよう
な動きをするなど、音楽に合わせて
体を動かすことで実感を伴いなが
ら、旋律や強弱がどのようになって
いるかを感じ取ることができるよ
うにする

○ 態：旋律の重なりに興味をもち、音画活
動を楽しみながら主体的・協働的
に鑑賞の学習活動に取り組もうと
している。 【観察】

◎ 何を気付かせたいのか ⇒ どう歌わせたいのか 振り返りは？

- ・ 旋律が重なったときの豊かな響き
- ・ 一体感
- ・ オスティナートも音楽的な表現を
- ・ 3拍子、ワクワク感

15

まとめ

1 何よりも大切にしたいこと

○ 「美しいものを美しい」と感じる気持ち

○ 子供たちが感じる「心地よさ」

↑ × 「愉快さ」「軽薄さ」

16

まとめ

- 2 「県学校教育指導方針」から
「音楽的な見方・考え方」を働かせた ⇒ 「学習の個性化」へ

音楽科の特徴として…

- (1) 「みんなで同じ曲を歌う」「みんなで同じ曲を聴く」
「みんなで作品を創る」 ⇒ 「みんなで同じことを同じように」
(2) 教科書以外の曲をどう扱うか？

子供が自身の学習が最適となるように調整することができるような活動を設定していく必要性

17

まとめ

- 3 評価にあたって

(1) 「主体的な学び」のポイント

- ① 「学びの対象への興味・関心」を引き出す
- ② 子供が見通しをもって、粘り強く取り組めるようにする
- ③ 「振り返り」を適切に位置付け、学んだことの意味や価値などを自覚し、さらに学んでいきたいという気持ちをもてるようにする

(2) 「対話的な学び」のポイント

「自らの考えを広げたり深めたりすることができるか」

(3) 「深い学び」のポイント

「音楽的な見方・考え方を働かせる」…音楽科ならではの学びか？

18

まとめ

3 評価にあたって

(4) 指導と評価の一体化を図る学習評価

子供たちの学習改善、教師自身の指導改善に資するものとなっこそ、その意味を成す

「子供たちに身に付けさせたい資質・能力」を明確にしないまま授業に取り組んでいませんか？

「指導したことを評価する」ことが大原則

19

まとめ

授業者の池田有希子先生
高萩市立松岡小学校の先生方
高萩市・北茨城市教育研究会音楽教育研究部の先生方

本日はありがとうございました。

20

- 1 題材名 曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう
- 2 本題材の目標
 - (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 [知識及び技能]
 - (2) 音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 [思考力、判断力、表現力等]
 - (3) 旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 [学びに向かう力、人間性等]
- 3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 B鑑賞 (1) 鑑賞 ア (ア)、イ (ア)

〔共通事項〕 (1) ア

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」「旋律」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材について

(1) 題材観

本題材は、B鑑賞 (1) 鑑賞 ア (ア)、イ (ア) に関する内容である。具体的には、曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことをねらいとしている。

本題材で鑑賞する「魔王」は、一人の歌い手が「語り手」「父」「子」「魔王」4役を歌い分けるドイツ歌曲である。ピアノ伴奏がそれぞれの役割の雰囲気づくりと情景描写を巧みに行っており、詩の内容をよりリアルに想像しながら音楽を形づくっている要素を知覚したり、雰囲気を感じたりすることが比較的容易にできる楽曲である。

(2) 生徒観

本学級の5月の意識調査では、鑑賞の活動が好きと答えた生徒は約6割だった。好きな理由としては、「様々な音楽に触れることができる」「歌うよりも聴くことのほうが楽しい」「ポイントをとらえて聴くと楽しい」などと答えた生徒が多い。鑑賞の授業を苦手と答えた生徒は約4割だった。苦手と感じる理由としては「聴いていると眠くなる」「歌うことのほうが好き」のほか「感想を書くことが苦手」「どんなことに着目して聴いたり書いたりしたらよいか分からない」などが挙げられた。生徒は、知覚・感受した内容を文章で表現することが苦手ということが分かった。

現状の改善の手立てとして「3分間鑑賞ドリル」と題し、授業開始3分間に楽曲を鑑賞し、音楽を形づくっている要素を知覚・感受し文章で表現する一連の過程に取り組む活動を始めた。また、それと同時に「言葉のストック」と題し、オンライン掲示板アプリ「パドレット」を活用し、音楽を形づくっている要素と関連する音楽的な語彙を、保存・共有する取り組みを始めた。それらの活動を通して、強弱やリズムなどについては、的確に知覚・感受し文章で表現できるようになってきた。一方、音色や旋律、テクスチャなどについては、「旋律が強くなっていく」「音色が突然速くなった」と記述するなど、音楽を形づくっている要素の働きを適切に捉えることに課題があり、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができている生徒がいることから、手立てを工夫することが必要であると考える。

(3) 指導観

生徒の実態から、音楽を形づくっている要素を限定的に扱い鑑賞を行ったり、それぞれの登場人物

に分けた音源を鑑賞したりすることで、知覚・感受する過程を容易なものにし、より主体的な鑑賞の学習活動につなげていく。また、一人一台端末を活用し、個別に鑑賞する活動を取り入れ、一人一人が時間をかけて鑑賞することで、生徒が音楽を形づくっている要素と関連付けて鑑賞することが難しいと感じている音色や旋律について知覚・感受する力を育む手立てとしたい。そして、これらの活動を通して、単なる情意的な感想を述べるのではなく、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く力を育むとともに、今後の歌唱表現などの表現領域の活動につなげていく。

6 題材の指導計画（2時間扱い）

◎は記録に残す場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	指導上の配慮事項
1	1	<p>目標：「魔王」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <p>課題 曲想と音色は、どのように関わりあっているのだろうか。</p> <p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>2 「魔王」を鑑賞する。</p> <p>(1) 「魔王」(原曲)を鑑賞し、全体的な感想や特徴的な要素について意見を交流する。</p> <p>(2) 「魔王」の日本語詞を読み、内容を理解する。</p> <p>3 課題に迫る。</p> <p>(1) 音色に着目し、捉えた特質や雰囲気、詩の内容とどのような関わりがあるのかを考えながら鑑賞し、気づいたことをワークシートに記入する。</p> <p>(2) 鑑賞で捉えた内容をグループで共有する。</p> <p>(3) 全体を通して鑑賞する。</p> <p>4 本時の振り返りを行い、次時の学習につなげる。</p> <p>まとめ ・魔王は恐ろしいイメージだが、優しい音色で歌っている。また、父は子を落ち着かせようと、穏やかな音色で歌っている。 ・子が怖がっている場面では、泣き叫ぶような鋭い音色で歌っている。</p>				<p>・意見の交流に戸惑っている生徒には感想を肯定することで、自信をもって発言できるようにする。</p> <p>・曲想の変化に気づくことができない生徒には、魔王と子を交互に鑑賞することで、特質や雰囲気の変化に気づけるようにする。</p> <p>・音色に着目できていない生徒には、各登場人物の歌い出し部分の聴き比べすることで、音色の変化をとらえやすくする。</p> <p>・発表することに戸惑っている生徒にはワークシートに記入した内容を肯定することで、自信をもって意見を共有できるようにする。</p> <p>知：曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート・聴取】</p>

目標：知覚・感受したことを、根拠をもって自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

- 1 3分間鑑賞ドリルを行う。
- 2 本時の課題を確認する。

課題

それぞれの登場人物には、どのような音楽的な仕掛けがあるのだろうか。

- 3 課題に迫る。
 - (1) 旋律に着目して鑑賞し、捉えた特質や雰囲気、詩の内容とどのような関わりがあるのかを考えながら鑑賞し、気づいたことをワークシートに記入する。
 - ①全体で楽曲を通して鑑賞する。
 - ②全体で登場人物ごとに区切った音源を鑑賞する。
 - ③個別に鑑賞する。

- (2) 捉えたことをグループで共有する。

- 4 まとめの鑑賞をする。
 - (1) 原曲を聴き、曲想と旋律との関わりを感じ取り、作曲者の音楽表現のよさや美しさについてワークシートにまとめる。

例：この曲は、それぞれの登場人物の心情が、強弱や音色、旋律などの変化で表現されています。特に子どもの感情の変化は、強弱が徐々に強くなることや、鋭い音色で歌われていたり、音の高さが徐々に高くなっていったりと、恐怖で叫びたいくなるような感情が表現されています。

・3分間鑑賞ドリルでは、本時の課題である「旋律」に特徴のある楽曲を鑑賞することで、本時の課題を意識できるようにする。

・前時の復習を行うことで、本時の課題との関連性があることに気づけるようにする。

・旋律に着目できていない生徒には、それぞれの登場人物に並べた楽譜を比較することで、視覚的に旋律の変化を捉えることができるようにする。

・歌手の違う複数の音源を聞き比べることで、歌手の思いや意図によって、旋律が違うことに気づけるようにする。

・個別鑑賞の際には、それぞれの登場人物に分けた音源を鑑賞することで、登場人物内の旋律が変化していることにも気づけるようにする。

・要素を正しく捉えられていない生徒には気づいたことはどの要素が作用しているものなのかを確認し、整理を促す。

・記入に戸惑っている生徒にはパドレットを活用し「言葉のストック」をたよりに記入するよう声をかける。

・改めて課題を確認した上で、自分だけが見つけた音楽的な仕掛けについて共有することで、思考を深められるようにする。

◎ 思：音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

【ワークシート】

◎ 態：旋律の雰囲気や歌手の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【聴取・ワークシート】

7 成果と課題

〈成果〉

- ・個別鑑賞では、場面ごとの音源に、MP3 のタグ情報やアートワーク機能で曲名を表示させることで、生徒がどの場면을鑑賞しているのか、即時に判断できるように工夫をした。それらの手立てから、鑑賞部分のヒントを提示したり、生徒の気づきについての意見交換をしたりと、スムーズに指導することができた。
- ・言葉のストックを活用することで、生徒がより多くの音楽的な語彙を使用することで、知覚・感受したことを文章で表現する有効な手立てとなった。

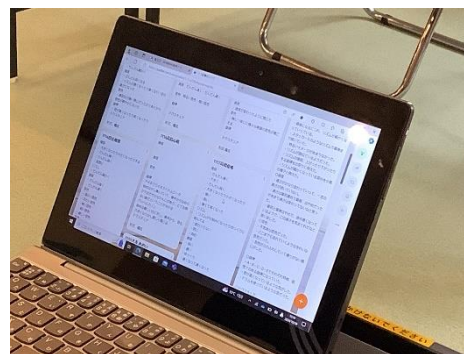
〈課題〉

- ・部分鑑賞では、4 人の登場人物を鑑賞後にシェアリングを行ったが、それぞれの登場人物の鑑賞ごとにシェアリングを行い、生徒の意見を活用して授業を展開したほうが、より対話的な学びにつながったと思う。
- ・それぞれの登場人物の部分鑑賞を行ったが、旋律の変化を捉えることが難しいとされる「語り手」については、鑑賞を省略し、「父」「子」「魔王」について、より深く鑑賞するという選択をしたほうが、深い学びにつながったのではないかと思う。

【中学校部会研究協議会】

(1) 授業者反省

生徒たちは必死に頑張ってくれた。1時間目は「音色」2時間目は「旋律」に着目して鑑賞した。共通事項については、「強弱」は生徒の実態として簡単に捉えられるため、今回は苦手な「旋律」に挑戦してみた。本時については高めの課題設定になってしまい、生徒たちはなかなか仕掛けが見つけれず、苦しい状況であったが、終始集中して鑑賞してくれたので良かった。部分鑑賞のところでは、一つ鑑賞したらそこでシェアリングしても良かった。また、もう少し生徒の意見を活用して進めていくほうが良かったと感じた。また、ヒントを3種類くらい出したが、もっとヒントを与えて発言を促したほうが良かったように思う。個別鑑賞については、1学期にも「春」の鑑賞で実施したが、生徒が今どの場面を聴いているのか分かりにくいのが課題だったため、今回はMP3を使ってどの場面を聴いているかを教師側が分かるように工夫をした。そのことによって、「ここを聴いているんだね。」という会話からスタートできるため、生徒も説明したり、止めたりしなくても確認できるという利点がある。音源については、自主的に事前に聴いてきた生徒もいたが、本時では1種類くらいしか聴けていない様子であった。グループごとのシェアリングでは、「言葉のストック」を活用するように促したが、話すことに夢中であまり活用が見られなかった。そして、最後のまとめがうまい着地点に至らず、生徒たちが混乱したまま終わってしまった。もっと音楽の仕掛けや旋律と曲想の関わりについて深めてから次の題材に移っていききたい。



(2) 協議内容

テーマ「つながる ひろがる ふかまる 『あい』のある音楽へ

～表現と鑑賞の関連を図った学習指導～

*中学校部会では、主に本日の研究授業について、良かった点・疑問点などについて意見を出し合い、近くの先生と普段の授業についての困り感などについて話し合いを行った。

〈授業者への質疑応答・感想〉 ○は質問 →は授業者からの回答 ・は参加者の意見

○3分間鑑賞ドリルが特徴的。その他にどのような取り組みをしているのか。

→書きたいのに書けない生徒が多く、答え方が抽象的で音楽的な語彙が増えていかないと教員側も評価することが難しいと思い、3分間鑑賞ドリルを始めた。1分目は曲を聴く、2分目は感想を書きこむ、3分目でシェアリングして言葉を増やしていくという活動を行い、評価がきちんとできるように取り組んでいる。選曲については耳に馴染みがあるものや小学校の時に聴いたものなどにして、毎回どこに着目して聴くかを明確にしてから聴くようにしている。学年に合わせて徐々に発展的な内容にしていく。

○「魔王」に関して、週1回の授業でどこまで深められたらいいのか、ピアノ伴奏のところをどこまで授業で取り上げていったらいいのか。

→ピアノはあまり取り扱わないが、鑑賞と表現のつながりを踏まえて、次回の「浜辺の歌」の授業と絡めていきたい。他の先生方はどのようにやっているか聞きたい。

・実際に弾いてみてこれはなにを表しているかを聞いたり、「魔王」のところの伴奏の雰囲気の違いを確認したりしている。登場人物ごとのCDをおいて、ブースを分けて聞かせている。その際に伴奏はどうなっているか投げかけて、生徒から出た意見を全体でシェアリングし、実際に弾いて確認している。

・前の鑑賞で取り扱った内容と関連付けて、「魔王」の伴奏について話をしている。

○3分間ドリルは歌の時はやっているか

→鑑賞の時期になるとやっている。歌の時にはほとんどやっていない。

○生徒たちがすぐ反応していて取り組んでいる様子が素晴らしかった。別の題材で学んだことを知識として蓄えたものをうまくつなげていく、引き出していくことに気を付けている授業だった。

○鑑賞領域と表現領域の関連を図った授業をどのように実施しているか。

・どの領域でも自分の思いを言語化することに気を付けて指導している。自分の言葉で表せないときには、全体でシェアリングしたときに友だちの言葉を使って表すようにするなど、鑑賞だけではなくどの分野でも意識している。

・1年生の時に学習した内容を3年生の学習で共通点が出てきたときにつなげて考えられるようにしている。例えば、「夢の世界を」の伴奏と歌のつながりを考えたときに、ピアノが歌を後押ししているような感じがする、ピアノと歌は切り離せないものであることを認識し、そこで「魔王」の授業でも同じように伴奏が関わっていたことを振り返る。

○ICTをどのように活用しているか

→サウンドエンジンというソフトで編集して配信している。MP3にするとタグ付けができ、名前の変更や画像を埋め込むことができ、さらにMP3を編集するサイトを使っている。

○ICTをどのくらい使っているのか

→鑑賞では発表ノートを使っている。ICTを使うと鑑賞の時には回収に手間取らないため、使いやすく、正当に評価ができる。書き込みの速度が遅くなってしてしまうので合唱の時には紙を使っている。歌唱の時は併用しながらやっている。創作はカトカトーンを使って創作している。

・合唱の時期に思考ツールとしてエクセルデータを使って共有したが、上書きなどの問題でうまく使うことができず、使うのをやめてしまった。作曲ではミューズスコアを使っている。また、歌唱などで曲について調べ学習をやりと積極的に調べる生徒が多い。

(3) 指導・講話

講師：茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事 井上 寛士先生

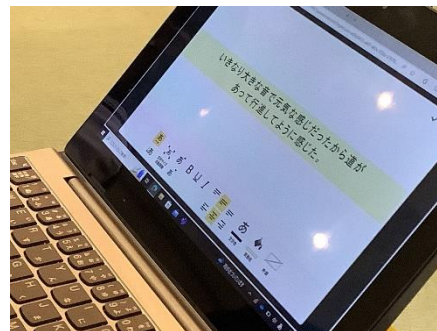
○本日の授業について

生徒の皆さんの取り組みが本当に素晴らしかった。3分間鑑賞ドリルのときにいきなり言葉をたくさん打ち始めたり、「魔王」についても高い課題に必死に取り組んだりする様子が素晴らしかった。日頃の先生の教育の結果が表れていた。今回の新しい研究テーマにふさわしい授業だった。

○学校教育指導方針を踏まえた授業の内容について

学校教育指導方針の目標については、歌う、楽器を演奏する、音楽をつくるなどの音楽活動を

のものを示しており、音楽活動が生涯にわたってできるように育成していくという内容である。そのための取り組みとして、指導方針に書かれた具現化のための4つの取り組みが示されており、県北ブロックのテーマに沿って、授業研究していくことが県の音楽科目標につながっていく。そして、音楽を形作っている要素を知覚して、音楽を感じていることが音楽の見方・考え方を働かせながら音楽に親しんで力を育むと



ということが今の学習指導要領の考え方になっている。上野先生の授業では、課題づくりから授業をスタートさせており、音楽の見方・考え方を働かせるためにはどんな工夫にしたらいいかをしっかり考えている。また、要素についても、何をよりどころにするのか見極め、どこに絞っていくのかが大切である。探究的な学びについては、もっと知りたいという学ぶ意欲を喚起する課題、実感を伴って課題解決に必要な知識を習得する。音楽を形作っている要素をよりどころにして思いや意図をもつ、表したい音楽を表現するために必要な技能を身に付けて学んだことを振り返るという一連の計画の中で、探究的な学びとイメージをもたせたい。今回の授業においては、自分だけの仕掛けを見付けてみようという課題を設定し、前回学んだ「魔王」へのイメージの違いを生徒に認識させてから、学ぶ意欲を高めていた。「視覚的に見てみよう」、「楽譜を見て」といった実感を伴った手立てを講じられていた。それにより、楽譜を見て「音が高くなっている」、「だんだんとフレーズが長くなっている」、「魔王」は5段になっているなどこちらも気付かないことを気付けた時間になっていた。3分間ドリルの積み重ねがあるからこそその姿になっている。さまざまな音楽を取り扱うことでねらいに迫っている。学習の個性化を図る授業の工夫については、みんなが同じことからそれぞれ違う学びをしていくことが求められている。個人鑑賞の時間は学習の個性化、ICTを活用することが学習の個性化につながっている。学校教育指導方針の内容については今後とも大切にしてほしい。

令和6年度

茨城県教育研究会 音楽教育研究部

県北ブロック音楽教育研究協議会

「これからの音楽教育について」



どのような授業をしていただきたいか

音楽

歌う、楽器を演奏する、音楽をつくる、聴く
など様々な形がある→音楽活動そのもの

(学校教育指導方針 P.18)

▶ **音楽重点** **【小学校】生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成**
【中学校】生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成

	努力事項	具現化のための取組
小学校	1 育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画の改善・充実 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽的な見方・考え方を働かせた学習の充実 ・感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会などに関連付ける学習の充実 ○ 内容や時間のまとまりを見通した指導計画作成の充実 ・思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実 ○ 音楽科の学習と学校外における音楽活動をつなげる授業の工夫 ・児童や学校、地域の実態に応じた学習 ・学校内外の音楽活動のつながりを意識した授業の実践 ○ 「学習の個性化」を図る授業の工夫 ・子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する授業づくりの工夫



具現化のための取組

- 音楽的な見方・考え方を働かせた学習の充実
 - ・感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会などと関連付ける学習の充実
- 内容や時間のまとまりを見通した指導計画作成の充実
 - ・思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実
- 音楽科の学習と学校外における音楽活動をつなげる授業の工夫
 - ・児童や学校、地域の実態に応じた学習
 - ・学校内外の音楽活動のつながりを意識した授業の実践
- 「学習の個性化」を図る授業の工夫
 - ・子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する授業づくりの工夫



音楽的な見方・考え方を働かせながら、とは

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること

君の好きな歌は何だい？

どこが好きなの？



プリキュアのテーマ
ソングかな

ミスターチルドレン
の曲いいよね

美空ひばりにはまっ
ているんだ

音楽の授業で歌って
るあの歌いいよね

音楽的な見方・考え方を働かせながら、とは

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、**音楽を形づくっている要素とその働きの視点**で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること

アーティストが
かっこいいから好き
歌詞が好き

**見た目を知覚
言葉を知覚**

K-pop自体が好き
曲の雰囲気が好き

音や音楽の雰囲気を感じ

ベースラインが好き
ボーカルの声が好き
メロディが好き

**音楽を形づくっている要素を
知覚**



参考：<https://music-log.net/>（令和5年4月28日参照）

どのような授業をしていただきたいか

留意したいこと

旋律→強弱

ぜのおとよくものさまよつ
するなみよかえすなみよつ

するなみもかいろも
きのいろもほしのかげも

旋律→強弱

強弱→強弱



要素を絞ることが大切

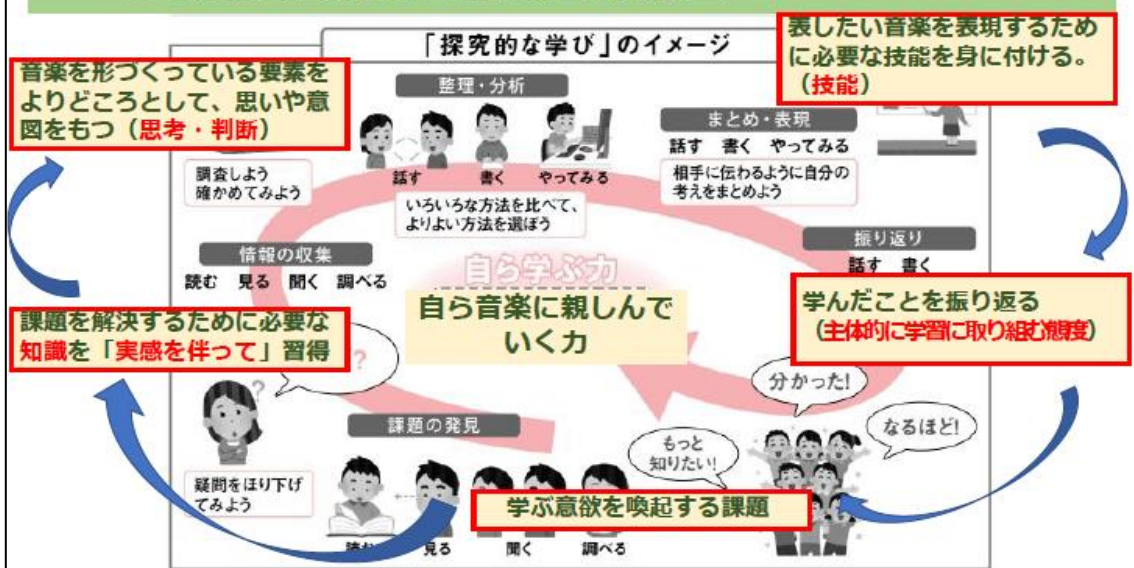
令和6年2月28日参照
https://bunbun.booo.jp/okera/w_shouka/s_sengo/ch3_hamabe_uta.htm

具現化のための取組

- 音楽的な見方・考え方を働かせた学習の充実
 - ・感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会などと関連付ける学習の充実
- 内容や時間のまとまりを見通した指導計画作成の充実
 - ・思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実
- 音楽科の学習と学校外における音楽活動をつなげる授業の工夫
 - ・児童や学校、地域の実態に応じた学習
 - ・学校内外の音楽活動のつながりを意識した授業の実践
- 「学習の個性化」を図る授業の工夫
 - ・子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する授業づくりの工夫



一連の活動を見通した指導計画



具現化のための取組

- 音楽的な見方・考え方を働かせた学習の充実
 - ・感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会などと関連付ける学習の充実
- 内容や時間のまとまりを見通した指導計画作成の充実
 - ・思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実
- 音楽科の学習と学校外における音楽活動をつなげる授業の工夫
 - ・児童や学校、地域の実態に応じた学習
 - ・学校内外の音楽活動のつながりを意識した授業の実践
- 「学習の個性化」を図る授業の工夫
 - ・子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する授業づくりの工夫

みんな一緒に、同じように、同じことを ではなく



①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
- 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する



音楽を形づくっている要素が、「義務教育終了後も音楽に親しんでいく基盤となる力」にどうつながるか

